

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	合併処理浄化槽維持管理補助事業	会計	一般会計	事業No.	298	施策順No.	45-008	
		事業種別	政策・重点	予算科目	4-1-5-20-2			
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	下水道課			
施策	45 居住基盤の向上			事業期間	開始	19	終了	22

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	合併処理浄化槽区域の市民、事業所。					A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度		23年度
		合併処理浄化槽の基数(基)	2457	2554	2636	2719		2827
		合併処理浄化槽の清掃、当年度対象基数(基)	1000	1000	1000	1000		1000
	意図	水環境の改善と市民生活の快適性の向上を図る。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	合併処理浄化槽の清掃基数(基)	958	905	952	1000	783	1000	C
	清掃実施率(%)=清掃基数/当年度対象基数	95.8	90.5	95.2	100	78.3	100	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	22年度は飯田市浄化槽設置管理組合や清掃業者などへ機会あるごと啓発してきたが、清掃補助実施基数783基にとどまり目標1000基を達成することができなかった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	浄化槽管理者の浄化槽の清掃に要する経費の負担の低減を図ることにより適切な浄化槽の清掃の実施を促進し、もって公共用水域の水質を保全するために清掃実施に対して補助をする制度である。 補助額 清掃費の2分の1(但し1万円を限度) また、この補助に関連し事前調査業務を委託。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	引抜きを行った者の実績報告により審査のうえ補助金を交付	1 補助基数 2 補助金額	1 783基 2 7,820,500円
23年度実施計画	平成23年度からは合併処理浄化槽整備事業と統合し「合併処理浄化槽普及促進事業」とする。		

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 補助10千円/1基が限度額 設置者から浄化槽清掃の委託を受け清掃を行った清掃業者へ補助(清掃業者は、清掃費用の額から補助金額を差し引きした額を設置者より受領)
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		11,130	8,705			
計 (A)		11,130	8,705	0		
正規職員所要時間			131			
臨時職員等所要時間			404			
人件費計 (B)			903			
トータルコスト A+B			9,608			

4 事業に対する市民や議会の意見

平成12・15・18年の上下水道審議会のおりに平準化を求める意見が出されている。16年12月定例会一般質問に対して、維持管理費に差があると認められる場合は補助する旨答弁している。その後補助の必要性が認められ平成19年度から補助を開始した。合併処理浄化槽整備事業と合併処理浄化槽維持管理補助事業を統合し、点検と維持管理を一体的に実施することで整備の適切な管理を行うべきであるとの議会の提言があり、平成23年度からは統合し合併処理浄化槽普及促進事業として実施していく。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞在者、事業者の生活・事業に必要な基盤が整う。	施策の成果指標又はムトス指標	下水道の普及率 居住基盤の満足度(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・水環境の保全によって居住基盤の向上につながっている。		
	後期に向けた課題	・合併浄化槽の適正な管理の推進。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・平成19年補助要綱を制定、制度利用により清掃経費負担減、適正管理につながる環境を整えた。 ・補助を行なうことによって合併浄化槽の適正な管理が推進された。		
	後期に向けた課題	・事業を統合して効率的な運用を行なう必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・引き抜き量に応じた補助金を交付している。		
	後期に向けた課題	・事務の効率的処理方法の確立。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・受益者の負担額は適正である。 ・適正な管理を指導するため市の関与は適切である。		
	後期に向けた課題	・下水道料金と浄化槽維持管理費の均衡についての検証。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①主体は設置者・施工業者・代行管理業者・清掃業者・行政からなる飯田市浄化槽設置管理組合で、清掃実施により水環境の改善と市民生活の快適性の向上に寄与いただいた。 ②清掃実施の促進のため飯田市浄化槽設置管理組合や清掃事業者と協働して啓発をした。		
	後期に向けた課題	・設置市民、関係業者、関係団体等を巻き込んだ協働による適正管理、清掃実施につながる方策の検討。 ・合併浄化槽の適正管理のため実施率の向上につながる啓発等が必要。		
全体を通じて	4年間の振り返り	・補助要綱制定による補助利用の環境が整った。 ・この補助制度利用によって浄化槽の保守点検、清掃の実施が促され、水環境の改善と市民生活の快適性の向上につながった。 ・合併浄化槽整備事業と一体化していくべきという提言をいただいた。		
	後期に向けた課題	・浄化槽維持管理に必要な適正清掃実施について、処理汚水量の減少の影響などについての検討が必要。 ・市民への補助制度浸透による認知、更なる啓発で清掃実施が増加するよう方策検討。 ・23年度より合併処理浄化槽普及促進事業として進め、未整備世帯の水洗化促進を図る。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ある	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------